

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2371000973
法人名	株式会社フレンズハウス
事業所名	グループホーム フレンズハウス草平
訪問調査日	平成20年5月6日
評価確定日	平成20年6月4日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2371000973		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス草平		
所在地	名古屋市中川区草平町二丁目4番地 (電 話) 052-361-5090		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年5月6日	評価確定日	平成20年6月4日

【情報提供票より】(平成20年4月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 6人, 非常勤 7人, 常勤換算 5.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	31,500 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 172,500 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食 200 円	昼食 450 円	
	夕食 450 円	おやつ 円	
	または1日当たり	円	

(4) 利用者の概要(平成20年4月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79 歳	最低 74 歳	最高 90 歳		
協力医療機関名	堂満医院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅街に位置し「お帰りなさい」と言って迎えてくれるような雰囲気を感じられるホームである。玄関の下駄箱には入居者の手作り作品(花の写真、数種類の可愛い動物の紙粘土)が目を楽しませ来訪者の気持ちを和ませ、入居者にとってはアットホームな我が家の存在になってきている。年1回の1泊旅行(今年は内海)に出かけ入居者、家族、職員のコミュニケーションの場にもなっており、ホームでの生活とは違う入居者の生き生きとした表情を見ることができる。毎週金曜日は外出の日でお弁当を持って、公園で草花を観ながらのランチなど四季を肌で感じることができ、入居者の楽しみの一つである。職員は入居者と毎日笑顔で過ごすことができるケアを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービスとしての理念は、ミーティングで前向きに検討され事業所独自の新しい理念となった。理念の中に地域との関わり大切さが組み込まれ職員は地域の方と言葉を交わすことが多くなった。災害を想定した自治会の避難訓練に地域の協力が得られるよう管理者、職員が参加し地域との連携につなげている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者はサービス評価の意義や目的を職員に伝え、全職員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に繋げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議のメンバーは民生福祉会長、福祉事業者、入居者が参加し、2カ月に1回実施されている。推進会議で行事案内の説明などを行ない、先回の外部評価に対しての報告や話し合い、意見などをいただきサービスの質の向上に活かしている。参加者の意見交換の場になっており、色々な意見が出されている。今回の外部評価の結果は次回の会議に報告が予定されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 些細なことでも話しやすい雰囲気づくりを心がけているので、家族からの意見や要望は直接職員に話されることが多い。必要に応じて外部への苦情相談窓口の連絡先を案内している。年に1回家族会を実施している。職員は日々業務の中の気づきや意見を月1回のミーティングで意見交換し、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入している。回覧板を活用し「フレンズ便り」でホームでの暮らしぶりや行事を伝えている。こども110番の指定を受け緊急避難所として地域に貢献できるよう努めている。運動会や敬老会、健康フェスタ、夏祭りなど地域で実施される行事に参加し、「どんぐり広場」で実施される夏祭りには自主的に草取りを行うことで協力している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念「笑顔であいさつかわし 人々と仲良くし 私達の役割を持ち 地域の一員としてお互い支えあい安心して暮らせるホームとする」を職員がミーティングなどで案を出し、話し合いを持ち地域との関わりの大切さを盛り込み地域生活の継続を支える理念を新たにつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関入り口に理念が掲示してある。入居者と職員の信頼関係の大事さ、地域の人達の役に立ちたいという気持ちで、日常的に理念の実践に向けて取り組みが行われている。月1回のミーティングで理念に対しての話し合いが行なわれ、サービスの質の向上に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。回覧板を活用し「フレンズ便り」でホームでの暮らしぶりや行事を伝えている。こども110番の指定を受け緊急避難所として地域に貢献できるよう努めている。運動会や敬老会、健康フェスタ、夏祭りなど地域で実施される行事に参加し、「どんぐり広場」で実施される夏祭りには自主的に草取りを行うことで協力している。また、民生委員から地域行事の情報をいただき、積極的に行事に参加した。それにより、近隣の中学校より体験学習の依頼を受け、ホームの生活を伝える機会が得られた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者はサービス評価の意義や目的を職員に伝え、全職員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に繋げている。課題に対する取り組みとして、理念の中に地域との関わりの大切さが組み込まれ職員は地域の方と言葉を交わすことが多くなった。災害を想定した自治会の避難訓練に地域の協力が得られるよう管理者、職員が参加し地域との連携につなげている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは民生福祉会長、福祉事業者、入居者が参加し、2カ月に1回実施されている。会議で行事案内の説明などを行ない、先回の外部評価に対しての報告や話し合い、意見などをいただきサービスの質の向上に活かしている。参加者の意見交換の場になっており、色々な意見が出されている。今回の外部評価の結果は次回の会議に報告が予定されている。	○	運営推進会議は、ホームが認知症の人を支える地域資源としての役割や機能もあることを地域の方に理解してもらう機会でもある。時には地域の馴染みの店などにアドバイザーとして参加してもらったり、地域向けの勉強会を考案するなど会議内容の幅を広げ、法人外部や家族の参加の呼びかけをしていくことも同時に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回ホームのパンフレットを持参し、運営推進会議の報告を兼ねて中川区の担当者を訪問し、色々な情報を得られるよう働きかけを行っている。権利擁護を利用されている入居者の金銭管理の確認をお願いしている。ホームの管理者が生活保護関係の係りの方へ入居者の生活状況の報告をしている。運営推進会議の参加を地域包括支援センターにお願いするが良い返事がいただけない状態である。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会が困難な家族には、月に1回ホームでの生活の様子、健康状況、金銭管理を報告している。2カ月に1回「フレンズ通信」を発行しており、外出先での入居者の生き生きとした表情を写真で報告している。入居者に会いに来られる家族には口頭にて、日々の様子、気づきを伝えている。職員の異動については、入居者の状態を確認して動揺がないように伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	些細なことでも話しやすい雰囲気づくりを心がけているので、家族からの意見や要望は直接職員に話されることが多い。必要に応じて外部への苦情相談窓口の連絡先を案内している。年に1回家族会を実施している。職員は日々業務の中で気づきなど月1回のミーティングで意見交換し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員を固定し担当制を設け、馴染みの関係が継続できる支援に心がけている。職員同士はチームワークが良く離職者は少ない。新しい職員が入社した時は経験豊富な職員が指導にあたり、入居者が自然に新人職員に馴染むよう、1~2週間かけて指導をしている。離職者が出た場合は、入居者に分かりやすくきちんと説明がされているのでダメージは少ない。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修年間計画を立て職員のレベルアップにつながるよう定期的(3カ月毎)に研修会を実施している。資格取得を目指している職員にはできる限りのサポートをし、職員一人ひとりに合った指導方法を検討している。外部研修には各ホーム2名ずつ順番に参加し、研修内容を持ち帰り内部勉強会に活かしている。参加できなかった職員には資料を配布して研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中川区事業者連絡会に加入している。グループホーム以外の事業所も加入しており、研修会では他の事業所の内容が分かり、勉強になっている。1年間に2回懇親会が行われ、中川区以外の事業所の参加が可能のため、他法人との情報交換の場にもなっている。新しい事業所の内覧会に招待されて出かけている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を希望された場合、管理者が説明に向き家族の方にはグループホームがどのような生活の場か見学をしていただいている。入居を希望される方には宿泊体験として5日間ホームで過ごしてもらっている。不安な気持ちにならないよう宿泊中も家族の方に毎日面会に来ていただき、雰囲気に慣れ親しんでもらえるよう心がけている。本人や家族が納得した上でサービスの開始に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかつ喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	感情のコントロールがうまく表現できない入居者に対して、さり気なく、和らぐ気配りの上手な声かけができる入居者から、職員が対応の仕方を学ぶことがある。夜勤者には「こんなに遅くまでありがとね」、外出した時には「苦労かけて連れて行ってもらってありがとね」と入居者から感謝の声をいただいている。職員は教えてもらうことが多く、入居者の昔話に心が和み、お互い支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日課や行事に合わせるのではなく、入居者の意思を尊重し、日々の言葉のつづやきから入居者の希望に添う支援に努めている。入居者のつづやきから、屋台のラーメン屋がホームに来てくれるようになり、入居者の楽しみが増えた。入居時のアセスメント（課題分析）で生活歴を把握し、一人ひとりの支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は情報収集（ケアチェック表）を細かく書きだし、仮の介護計画を立て、月1回のカンファレンス時に問題提議し、理由を説明している。計画書には本人の長所を記載する欄があり、入居者の長所を伸ばし大切にしていきたいという思いがうかがえる。本人や家族にも計画の内容を説明している。家族には本人の状態について「困っていること、なぜ起こるのか、何をどうするか」などを分かりやすく説明し、意見を聞きながら介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3カ月毎に行われている。職員はケアプランチェック表に個々の入居者の目標を書き、毎日の変化を記録している。職員の意見や個人記録をもとに、アセスメントしながら計画を見直している。月1回の会議の時、入居者の様子を話し合い、会議の記録に残されている。カンファレンスには入居者、家族にも参加してもらっている。訪問できない家族には計画書を郵送し確認してもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊は入居者、家族の希望を取り入れている。家族の訪問はいつでも可能であり時間は決めていない。訪問看護が週1回あり、入居者の健康管理を行なっている。また、希望者は週2回訪問リハビリを受けている。通院介助は基本的に家族にお願いしているが、家族の通院介助が困難な場合は職員で支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医師、訪問看護師による往診が1週間に1回あり、結果は家族に詳しく報告している。訪問看護では、看護師がつける記録以外に、職員が看護師からの報告内容を「連絡ノート」に記載している。そして、提携医の往診時にノートを医師に見せ、情報提供や連携に努めている。健康管理のノートを全職員で共有し適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化時における医療サービス提携内容に関する指針で24時間緊急対応協力医療機関及び訪問看護と提携を結んでいる。入居時に説明をし、できるだけ早い時期から本人、家族、医師、看護師、職員で話し合いながら段階的に進めている。終末期には家族、医師、看護師、全職員で看取りの方向性を共有しながら支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は、入社の時同意書を提出している。失禁した時は他の人に聞こえないように「お部屋に行きましょう」と誘いかけ、入居者の部屋で清拭して着替えている。名前が入った不要なメモはシュレッダーにかけている。個人情報事務所に保管している。個人情報同意書は家族からいただいている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出やレクリエーションは、入居者の希望に沿って実施している。参加は自由である。朝ゆっくり目覚める方、のんびりテレビを23時まで見ている方、ノンアルコールビールを冷蔵庫から自分で出し（職員がきちんと管理している）アルコールをたしなむ方など、1日の流れはあるが一人ひとりのペースを大切に常に入居者が主役である支援を心がけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は職員が立てている。買い出し(週2回)、調理、配膳、盛り付け、後片付けは入居者と共に行い、同じものを一緒にテーブルを囲んで食べている。会話も弾み楽しそうである。食材も新鮮なものを八百屋から週2回配達してもらっている。外食は2カ月に1回行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は金曜日以外で2日に1回としているが入居者の中には、ほぼ毎日入浴している方もいる。入浴を拒否される方には時間帯を変更したり、声かけを工夫するなど無理強いせず、本人の思いを尊重しながら支援している。3日以上拒否される時は清拭に変更している。希望者には同姓介助を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、入居者の得意分野(調理、掃除、洗濯物干し、買い出しなど)を把握し入居者一人ひとりに力を活かせる場をつくり、必ず感謝の言葉かけを忘れないようにしている。誕生日のケーキはみんなで手作りして祝っている。ボランティアが落語、アニマルセラピー、ビックショーなどをして入居者に披露している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	金曜日は外出の日と決め、馴染みのお店、外食、ドライブに行ったりして気分転換に配慮している。また、天候のよい日には、5~6人の入居者が近くの公園まで散歩しており、その際にはゴミ拾いもしている。年に1回1泊旅行があり、入居者のほとんどが参加しとても喜んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	「窮屈を感じない。いつでも出ることができる。家族が出入りしやすい。近所の方が来やすい」を配慮し鍵をかけない取り組みを行っている。時として入居者の表情が険しくなった時は、鍵をかけるが落ち着くと鍵を外している。職員は入居者の顔色、表情、服などをこまめに観察している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間で消防計画を立てており、防災会議は年4回、訓練は年2回行われている。火災通報点検は、6カ月に1回業者が実施している。地域の人々の協力を得られるように運営推進会議で相談した。地域で行われている避難訓練には、管理者と職員が参加している。災害の備蓄（水、乾パン）などは準備されている。家具の転倒予防は家族に協力を呼びかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は偏らないようにバランスを考慮し魚、肉を交互に野菜中心で調理するよう努めている。また、春と秋年2回の健康診断を行い、血液検査は年4回実施し結果を医師に相談したり、看護師からどのような食品を摂取するとよいか、栄養のアドバイスを得ている。体重測定は1カ月に1回実施している。食事や水分摂取量は毎日チェックされており、水分はおおよそ1日1ℓを摂取している。苦手な食材の時は調理に工夫をしたり、言葉を巧みに持っていくと食べていただける場合もある。	○	食事の意義や大切さについて理解し、献立づくりにも配慮されている。献立表には使用した食材までは記載されていないことから、記載することで職員同士が栄養バランスの確認や見直すことができる。見直す場合には、専門職に相談することも視野に入れ検討されることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、入居者が作った小物が飾られている。台所は対面になっており入居者といつでも話することができる。窓枠は大きく室内に日差しが入り明るい。ベランダにはイチゴを植えて収穫を楽しみにしている。居間の壁には旅行や藤の花見の写真が飾られている。時々壁面の作品を入居者と職員が一緒になって取り替えて楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた馴染みの家具、テレビ、テーブル、椅子、鏡台、アルバム、裁縫箱などを自由に持ち込み、入居者が居心地よく過ごせるように配慮されている。すべての居室にナースコールが設置されている。シーツ交換は週1回されている。掃除は入居者と職員が一緒に行っている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。